

2021年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

2021 JUA/AUA Virtual Resident Program 参加報告

内 田 裕 将 (東京医科歯科大)

東京医科歯科大学大学院腎泌尿器外科学に所属しております内田裕将と申します。2022年2月10日にJUA/AUA/SBU主催のvirtual resident programに参加させていただきました。思い返せば、resident programに選考いただいたのが2019年10月であり、COVID-19以前の時期でありました。その後AUA 2020は開催されず、2021年9月にfully virtualで開催されたAUA 2021が続き、その間もこのresident programは開催方法を模索されている状態でした。特典としてAUA 2021の視聴資格をいただき非常に勉強になったものの、あまり国際学会参加の実感はわからず、virtual programの開催が決まったときはついという思いを抱きました。

当日はAUA SecretaryであるDr. Denstedtを始め、日本からは野々村教授、市川教授、富田教授もご参加いただき盛り上げてくださりました。同じくプログラム参加者の東京慈恵会医科大学の占部先生、ブラジルのSBUレジデント、AUAのスタッフも交え、スタートは日本時間の夜9時。15名程度の参加者の中でGood morningとGood evening、冬と夏の格好も入り混じることとなりました。その日は珍しく東京は大雪の予報で、積もって電車動かないぞとのニュースに怯んで、大学の近くのホテルから参加させていただきました。始まりはDr. Denstedtによるpublicationの心得についての講義、続くDr. Smithによるleadershipについての講義、日々の自分を

省みるといづれも縁遠いところにあることよ…と耳が痛くなりながらも楽しく聴いていると、急にレジデントによるcase presentationの順番が回ってきました。発表順は私が一番手、オンラインで海外と繋がること自体が初めての経験であり、緊張の末に冒頭から嘔みまくりました。こうなると国際学会の壇上でのかつての苦い思い出が否応なく頭をよぎるわけですが、今回は画面を通して相手の反応や表情がしっかり見てとれるので、いざ発表が始まってみると徐々に平常心を取り戻しました。自分が話している最中にかすかにレスポンスがあるだけでも心強いものでした。私の発表は結石による敗血症の症例を選択しましたが、Dr. DenstedtはUrolithiasisの大家でもあるため、より踏み込んだフィードバックを頂けたかと思えます。

進行の労をお取りいただきました野々村教授、国際委員長の市川教授、ご推薦くださいました藤井教授、開催まで根気強く連絡を取り続けてくださったMs. Roth、本プログラムの開催にご尽力くださいました多くの関係者の方々に心より感謝申し上げます。今年もまだ海外渡航は厳しい情勢ではありますが、来年以降の米国での学会現地参加を夢見て、日々研鑽を積もうと考えております。今年こそパンデミックが終息を迎え、今後も多くの若手の先生方がこのプログラムの参加経験を得て活用されることを祈っております。